

'83関東ゴルフ連盟機関誌

KGAニュース GJA



目 次

頭の古い一人のゴルファーの練言	1
岩本 勇	
JGAハンディキャップの意義	3
武内 俊三	
昭和59年度主催競技日程	6
第9回関東グランド・シニア・ゴルフ選手権競技	8
第30回関東シニアゴルフ選手権競技	10
ルールQ & A	13
解答者:日本ゴルフ協会、ルール委員長 浜口五郎	
理事会・委員会	17
月例競技成績表	19
(昭和58年9月~11月)	

No.5

頭の古い 一人のゴルファーの練言

那須ゴルフ倶楽部理事長 岩本 勇
関東ゴルフ連盟監事



今年の二月の半ば頃に旧友の細川護貞氏から電話があり、今度自分が関東ゴルフ連盟の理事長を引受ける事になったので昔の仲間の一人として監事になつてもらいたいとの依頼がありました。何分突然の事でもあり自分としては従来から考える処があつて協会や連盟の仕事には局外者の立場でいたいと思っていたので御断りしたいと申したのですが、監事として連盟の動きを見守っていてもらうだけでも余り働く様な事はしないからとの御言葉だったので御引受けする事にした様な次第です。

実は御承知の方も沢山いらっしゃる事と思いますが、私は丁度五十年前の昭和八年に故野村駿吉氏(元日本ゴルフ協会副会長)と一緒に石油輸入関係の仕事を始めたものでそれ以来、戦前、戦中、戦後を通じて色々の場面にぶつかり乍ら今日に到る事が出来ました。二人だけで始めた創業時唯一の扱い處は、野村氏の米国に於ける顔の広さと内外の良き友人達との親交であり、それが国内では海軍省軍需局や民間石油会社への重油や原油等の売込みにつながる一方、米国に於て石油会社との連係に発展していった事です。野村氏とは何かと御互いに気心の知れていた事は二人が約2年間西米シアトルの三菱商事支店と一緒に仕事をした事があったからだと思っております。

私がシアトル支店へ赴任したのは昭和8年5月で野村氏はその前年からシアトル支店長として活躍されており、丁度Bobby JonesがGrand Slamを達成した時期で、そのスwingだけでなく服装まで当時のゴルファー仲間の憧れ的でありました。当時のシアトルを始め太平洋岸の各地ではゴルフは非常にPopularであり、一般の市民も手軽に楽しんでおりましたが、少し名前の通ったPrivate Clubでは日本人メンバーの入会には拒否反応が強く、僅かに代表的な日本商社、銀行、船会社の支店長だけが会員として入会を認められて居りました。

野村氏は常に外人メンバーの中に溶け込んで対等

に付き合っておられ、倶楽部同志の対抗試合等にも引張り出されていました。1927年の日本アマチュア選手権保持者という事も氏の名声に大いに寄与していたのだと思います。当時からのこの様なゴルファー仲間との付き合いが戦前、戦後の日米間のゴルフ交流にも影響する処が多く、特に戦後の日本のゴルフの著しい発展に際し、日本のプロゴルファーの海外渡航や技術研修への野村氏のひたむきな援助協力にもつながったのではないかと思われます。

戦後野村氏は会長の石井光次郎氏を扶けて日本ゴルフ協会の運営発展に協力されましたか、その間にまだ歴史も浅くまとまりの出来ていない日本のプロゴルファーがアマチュアとは異なった一つの職業としての独立した組織を作り上げていくべきで、いつまでもJGAや所属倶楽部に依存しているべきではない。そのためにはアマチュア側でも極力その実現に協力援助を惜しまるべきではないという事が、氏の持論の様でした。

その反面アマチュアとプロとの間には判然とした区があるべきで、御互いに技術上達やプレーヤーとしてのマナー等には同じルールの下でプレーする以上共通する面が多々あるのは当然だが、それにより生活しようとするプロのゴルフとそうでないアマチュアのゴルフとは、その間に判然たる差違がなければならないという事で故人となられた大谷光明氏や高畠誠一氏等とも良くそんな話をしておられた様に記憶しております。それで自分はゴルフが好きだから、事ゴルフに関する限り単に所属クラブの運営のみならず日本のゴルフ界への協力、海外のゴルフグループとの接触を通じてゴルフによる国際親善発展に寄与したいと思うから、会社の仕事の方は君に任せるが、ゴルフ関係では余り面倒を煩わさない様にするといわれその通りに実行されました。これが私が最近までゴルフは好きだがゴルフ倶楽部の運営等については、無関心だった主な原因といえるのではな

いかと思っております。

終戦後関東地区でのゴルフ場接收問題関連での進駐軍との折衝、カナダカップ競技の日本誘致への協力、世界アマチュア・ゴルフ・カウンシルの設立、昭和37年第3回世界アマ競技の川奈に於ける開催決定への努力とその完遂、昭和38年のフィリピンでの第1回アジア・アマ競技の創始等数々の業績を残されました。その間東京ゴルフ俱楽部の理事長としての俱楽部内の会員総意の取りまとめや、JGAの改組問題等本来余り好きてない性質の仕事と取組まれるにつけて折にふれて私達に所属の俱楽部の運営に協力する事ぐらいは会員としての義務だが、それ以上の事はなるべく御免蒙って自分のゴルフを楽しむ様になりたいものだといっておられました。

この様な野村氏の毎日を教訓にして一人のゴルフ爱好者として健康本位に勝手に楽しんで来た様ですが、五十余年をふり返って見ると自分の一生に占めるゴルフのウェイトの大きさにいまさら乍ら驚いている次第です。昭和4年渡米してから7年に帰国するまで独身の気軽さで余暇は釣りと仲間との親善ゴルフで明け暮れ、7年帰朝の直後相模カンツリー俱楽部へ入会、翌8年には朝霞へ引越直後の東京ゴルフ俱楽部へ入会する事が出来ました。朝霞では数少ない普通の月給取りメンバーの一人でしたが、ゴルフ界の諸先輩から親しく指導して頂いた当時の俱楽部内の雰囲気を貴重なものとして覚えております。当時は大晦日にも開場しており熱心な仲間と日没迄プレーしました。昭和15年春頃から陸軍予備士官学校への接收問題が持ち上がり、一番のフェアウェイすれすれに陸軍の練習機がいやがらせに低空飛行したりして遂に9月には170万円での買収が決定した後、秩父C.C.と合併して新しい東京ゴルフ俱楽部コースが現在地に昭和15年12月15日開場されました。

朝霞のコースは昭和16年3月16日に閉場される事となり、当時は末弘巣太郎、福井藤吉、岡庄五の三氏と最終組で回り、夕方ロビーで一同螢の光を歌って別れを惜しだ事が深く印象に残っています。小柄ながら向意気の強い末弘博士は、歯切れの良いゴルファーで、当時1個1円のボールをやりとりするワン、ボール、ナッソウの程度のベットは丁度双六で蜜柑をかけると同様で決して賭博行為ではないから万一事件になつたら何時でも無報酬で弁護人になってやるといっておられました。もっとも戦後もボール

がチョコレートになった程度なら無難でしょうが、最近色々不穏な噂話を耳にする事もありますが戒心の要があると思います。

以後、今日迄自分の仕事ではないとはいうものの日本のゴルフ界の変遷というか発展というか色々な意味での変化を予想する事が出来なかつた自らの不敏反省しています。

現在全国のゴルフ人口もゴルフ場の数も戦前とは比較にならない程増加しており、使用されるクラブもボールも、幾多の改良が加えられております。一方コースのレイアウトには色々工夫が凝らされ、プレーにも色々技術を要する様になっていますが、18ホールの距離は以前と余り変わってない様に思います。どうして以前に比べて平均1ラウンドの所要時間が長くなっているのか、何處に原因があるのか、是正方法はないのか、是非一考を要する問題だと考えます。この頃では1ラウンド4時間以内に終了する事は仲々難しい様に言われていますが、もしグリーン上で時間を取り過ぎるとすれば、お互いの配慮だけでもある程度の改善は可能かと考えます。生活のかかっているプロ達のやり方を真似すれば良いというものでもないと思いますがどんなものでしょう。

また公式試合ででもない場合、teeでの打順を適当に申し合せて変更しても良いのではないかと思います。先頭の長打者が安全を確認して打った後、次の打者達が短い距離しか打てないのを見る事がありますが、案外 Honourと言う言葉にこだわるのかも知れません。要するにゴルフはテニス等と違い、自分で自分の球を打って自分で自分のスコアを作っていくのですから我が道を行けば良いのでしょうか、皆がこんな考でやれば收拾がつかないので、ルールが出来、エチケットも守られなければならなくなる訳です。

要するに自分なりのゴルフをやる事により、他に迷惑とか不快感を与えない様にする事がゴルフを楽しむ方法であり、老境に入つて私のゴルフも何とか近所迷惑にならない様に注意して、一日でも長く続けたいものと思っております。

最初考えていた事とだいぶ違つた方向へ脱線してしまいました。何卒御容赦ください。

昭和58年11月26日 記

JGA ハンディキャップ

JGAハンディキャップの意義

関東ゴルフ連盟ハンディキャップ委員長 武内 俊三

今や国民的スポーツと言われるまでに普及発展した我国のゴルフ

日本におけるここ十数年来のゴルフの普及発展ぶりは目覚しいものがあり、ゴルフ・コースの数は千数百、ゴルフ人口は1千万人とまでいわれるほどに増大し、今やゴルフは国民スポーツといつても良いほどの位置を占めて来ました。

これだけ急激な発展ぶりを見せたゴルフですが、このゴルフのどこにそんな魅力が秘められているのでしょうか。

日常のせせこましい生活や、追いまくられる仕事から開放されて、陽光を浴びながら緑のフェアウェイに白球を追うゴルフは、ただそれだけでも十分に魅せられるスポーツであることに違いはありません。

しかし、そればかりでなく、ゴルフは年寄りから女、子供にかかわらず、うまい人であろうと下手な人であろうと、いつでも対等に勝負を楽しめるところに爆発的な普及の原因があるのではないかでしょうか。つまり、ゴルフにはハンディキャップという便利な物があります。ゴルファーは実力相応のハンディキャップを持つことによって、たとえプロとビギナーが対戦しても、互いに勝負にしのぎを削ることも出来るのです。いつ、どこで、誰と対戦しても、適正なハンディキャップさえあれば、ゴルフを最高のゲームとして楽しめること、これがなお一層ゴルフを親しみやすいスポーツとしているわけです。

つまり、このゴルフをお互いに気持良く、フェアに楽しむためには、誰にも片寄らず、公平で適正なハンディキャップを定めることができます。国内ばかりではなく、国際的にもゴルフを通じての交流がますます盛んになって来た現在では、このハンディキャップも同じ規準のものとに、全国どこでも通用するハンディキャップを制定すれば、もっとゴルフは親しまれましょう。

日本ゴルフ界にとって画期的な大事業となったハンディキャップの統一

日本ゴルフ協会は、こういった狙いのもとに昭和53年4月より最も合理的なシステムとして米国で実施されているUSGAハンディキャップ・システムを取り入れ、JGAハンディキャップ規定を制定致しました。以来、数年を経過いたしました。JGA、KGAはハンディキャップの全国統一という日本ゴルフ界にとって画期的な大事業に取組んで来た訳ですが、ハンディキャップを剣道、柔道、囲碁、将棋等の日本の名譽段位と同様に思いこんでいた従来の考え方から、実力の上下に応じて常に流動する新しいハンディキャップ・システムへの転換は、まさにハンディキャップに対する意識革命であり、古いゴルファーの中にはこの切替にとまどい、かつ反発する方が出て来ることも予想されました。

現在、関東ゴルフ連盟の調査では連盟加盟の335クラブ中、JGAハンディキャップ・システムを取り入れたクラブが約3分の2、未実施が約3分の1に達しておりますが、連盟ハンディキャップ委員会でも本年度はこの未実施クラブを対象に、各県別にハンディキャップ説明会を開催して積極的に普及の推進に努力したばかりでなく、未実施クラブに対するアンケート調査を実施し、新ハンディキャップ切替への障害がどこにあるかを探って見ました。

新しいハンディキャップへの切替に対する連盟加盟各クラブの反応

各県での説明会で意を強くしたことは、未実施クラブではあってもハンディキャップの計算方式は基本的にJGA規定に準拠しているクラブが少なくなかったことで、完全実施にまでは踏み切れない今まで、徐々にJGAハンディキャップに近づいて来ているクラブが多くなっていることが感じられました。また、実際に説明会での話し合いからJGAハンディキャップへの切替を約したクラブも出て来ており、この説明会がJGAハンディキャップに対する理解を

JGA ハンディキャップ

深めるために大きな役割を果したものだと思います。しかし、こういったクラブばかりではありません。説明会でもアンケート調査の回答の中でも、未だに根強く反発しているクラブもありました。それらの反論を聞き、かつ読んで見て感じましたことは、いずれもゴルフ界におけるクラブの立場、及びハンディキャップ本来の役割等を理解しようとせず、ご自分の錯覚の上に反論を組み立てているのではないかということです。

はたして錯覚かどうか、ここで説明会とアンケート調査の中から重立った反対論について分析して見ましょう。

「クラブ内は今までのクラブ・ハンディキャップで十分間に合っているから……」

これは真向から反対論をとなえるクラブが多い言い分でした。もともとクラブという体質には他からの影響を排除する閉鎖性があり、その云うところもわからない訳ではありません。しかし、クラブが日本ゴルフ協会、及び関東ゴルフ連盟に加盟したことは、協会、連盟の目的や使命に賛同し、ゴルフ界への連帯を深め、ゴルフ界の発展に一致協力するためだったのではないでしょうか。ゴルフ界全体の交流をますます高めるための統一ハンディキャップの実施は、歴史的に大きな意義のある大事業です。今やクラブ内だけ良ければ……という狭い考え方ではなく、ゴルフ界全体のために改め直してほしいものです。

また「クラブ・ハンディキャップで間に合っている」という考え方には、クラブ委員会で決めたハンディキャップがすべて適正に保たれているという自信に裏付けられているのでしょうか、こういったクラブに限ってクラブ競技の上位に顔を出す常連には目がとどいて、入賞のチャンスに恵まれない多くの人々は、いつまでも昔のハンディキャップのまま放置され、そしてそれはハンディキャップを増やされることは“不名誉”という間違った感覚を植えつけることによって平穀が保たれているのではないかでしょうか。

プレーの全スコアを提出することがJGAハンディキャップの大前提

スポーツは同じスタート・ラインに立たされてこそ、競技も充実したせり合いが展開され、かつフェアな勝

負を期待することが出来ます。クラブ内の競技を全員がフェアに楽しめるものにしたいと願うならば、出来るだけ委員会の少数の主觀を排し、日頃のスコアというデーターを基本にすべきでしょう。

「JGAハンディキャップは提出カードを作意的に作ることにより、プレーヤーがインテンショナルに操作できる」

こういう主張もかなりありました。

しかし、同じ反論にしてもゴルファーが自分の利をはかるためにスコアを作るだろうと考えるのは、いさか情無い発想ではないでしょうか。それこそゴルフ以前の問題であり、しっかりしたクラブ・ライフゲーム出来ていれば、こういった恥ずべき行為は起り得ないと思うのですが如何でしょうか。

それと、JGAハンディキャップの場合、スコア・カードの提出はプレーヤーの任意であると思い違いをしている人が意外と多かったようです。スコア提出がプレーヤーの任意であれば、ハンディキャップも片寄る恐れが生じます。そうではなく、普段のプレーを含めて全スコアを提出することがJGAハンディキャップの大前提です。全スコアを提出するとなれば、そうそうスコアを作意してばかりいられません。しかもスコア作意の常習者は自然にクラブ内では明確になって来ましょう。若しそういった人がいたとすればハンディキャップ委員会はハンディキャップの取消、競技出場の停止、大幅なハンディキャップの減少等、断然なる処置を取るべきです。クラブ内を明確にするためには、時には厳格な処置も必要だと思います。

スコアというデーター以外に公平なハンディキャップの査定方法はない

「本人の年令、スコア・カードの内容、健康状態等を勘案する委員会の機能を發揮できないのは、公平なハンディキャップとはいえない」

最新の20ラウンド中のベスト10枚のアベレージで出されるJGAハンディキャップは、スコアばかりを基礎にしてあまりにも機械的に決め過ぎるのではないか……(と言いたいのでしょうか)。

しかし、ハンディキャップ委員会が4~5百人から千数百人に達する全メンバーの体調から、技量の

上達状況まで把握し、しかもスコアの内容から雨、風等の気象条件まで加味してハンディキャップを査定しているとすれば、それはまさに神業としかいいようがありません。第一、年令とか体調、それにスコアの内容や天候の影響等、こういった諸条件をハンディキャップという数値にどうやって転換させることが出来るのでしょうか。全員に公平で合理的な方法があるとすれば、是非ともお教えいただきたいものです。

体調の良し悪し、技量の上昇、下降等はすべてスコアに現われて来るものです。しかもJGAの規定では、大叩きをしたホールは、その人のハンディキャップに応じて切下げるストローク・コントロールも行ないます。こうして出されたスコアの傾向こそ、一番正確に実力の傾向を示すのだといえます。

つまり、スコアという明確なデーターにもとづいて出されるJGAハンディキャップこそ、こういった諸条件がすべて自動的に加味されて算定されるハンディキャップなのです。

**会員の親睦を乱すのではなくむしろ高める
JGAハンディキャップ**

「競技において極端なアンダー・バーのスコアが出る可能性があり、会員相互の親睦を乱す」

これは未実施クラブの間に意外と多い意見でした。確かにJGAハンディキャップへの切替頭初に各クラブで多く見られた現象です。しかし、それはスコアの提出が少なく、提出カード5枚のうちのベスト・カード1枚で査定はじめた誠に不安定な時期には、どうしてもそういう事態は起りがちですが、そもそもメンバーの提出カードが20枚を越すようになれば、ハンディキャップも安定し、極端なアンダー・バーのスコアが出ることは少なくなっています。

ただ、こういうことを問題にされる方には、クラブ競技等でアンダー・バーのスコアが出るのはみっともないという感覚がおありのようです。それでアンダー一分はそっくりハンディキャップから切下げるという極端な査定も出てくるのです。これでは公平なハンディキャップとすることはできません。

ハンディキャップはどんな人とプレーしても、対等なものでなくては意味がありません。例えばハンディ

キャップ0のトップ・アマチュアかプロと対戦したとします。これ等の人たちは好調ならば3アンダーから時には5アンダー以上の良いスコアを出す事があります。ですから他の一般プレーヤーにしても、すべてに好調なプレーが出来たときには、ネットで5アンダー前後のスコアも出する事があるようでなければ、これらのトップ・プレーヤーたちと対等な競技は出来ますまい。

JGAハンディキャップは最近の20ラウンド中のベスト10スコアを選び、このコースレートとの差のアベレージに96パーセントを掛けて算定されます。つまりアベレージで出されているJGAハンディキャップには、ベスト・プレーが出来たときにはネットでアンダー・バーのスコアが出せるように出来ています。

これとは別にハンディキャップが20前後から30以上の人たちは、何かヒントをつかむことによって急激にゴルフが良くなる場合があります。これがまたゴルフの特質ですが、こういう場合は委員会でよく見極め、急激な上達者としての処理を検討する必要が出てくるわけです。こうして見れば決してアンダー・バーのスコアは会員の親睦を乱すではなく、逆にJGAハンディキャップこそ会員の親睦を高めるものだといえるのではないでしょうか。

この他にもいろいろとご意見もありましたが、ここにあげました説明でご理解いただけたと思います。いずれにしても、未実施クラブの方々はもう一度ハンディキャップの本質を見直していただき、JGA、KGAが日本ゴルフ界全体のために進めている統一ハンディキャップの大事業に、是非とも足並を揃えていただきたいものと願っている次第です。

競技日程

昭和59年度主催競技日程表

月	日	曜	競技名	競技場	競	
					方	法
5	8	火	関東アマ予選 第1ブロック	相武	18S	1.JGA Hdcp 9まで 2.未実施クラブは年間ベスト10 スコアで8まで 3.前年度東日本バブリック・ アマ2~10位 4.前年度関東ジュニア2~10位
	10	木	第2ブロック	甘樂	18S	
	9	水	第3ブロック	富士小山	18S	
	11	金	第4ブロック	千葉国際	18S	
	11	金	第5ブロック	宍戸国際	18S	
5	15	火	関東女子予選 第1ブロック	富士	18S	1.加盟俱楽部各種女子会員 JGA Hdcp 20まで 2.未実施クラブは年間ベスト10 スコアで18まで
	15	火	第2ブロック	佐倉	18S	
5	24	木	関東アマ決勝	東の宮	18S	1.予選通過者 2.月例総合成績40位 3.前年度関東アマ5位 4.前年度関東オープン・アマ5位
	25	金			18S	
	26	土			18S	
	27	日			18S	
5	30	水	関東女子決勝	桜ヶ丘	18S	予選通過者 前年度関東女子10位
	31	木			18S	
6	4	月	俱楽部対抗予選	府中間	18S	任意参加 決勝にシードされた決勝開催クラブは、予選競技に出場することは出来ない。但し、予選ブロック参加チーム数には加算する。
	4	月	東京地区		18S	
	4	月	埼玉地区		18S	
	4	月	千葉地区		18S	
	4	月	群馬地区		18S	
	4	月	長野地区		18S	
	4	月	静岡地区		18S	
	4	月	神奈川地区		18S	
	4	月	茨城地区		18S	
	5	火	栃木第1地区		18S	
58.10	5	火	栃木第2地区	那須千葉	18S	
	4	火	新潟地区		18S	
7	2	月	俱楽部対抗決勝	習志野	18S	各ブロック予選通過チーム
	7	24	火	ノーザン錦ヶ原	18S	
7	25	水	関東ジュニア予選		18S	高校男子 18歳未満 女子 18歳未満
	26	木			18S	
8	1	水	関東ジュニア決勝	武藏(笹井)	高校男子 18S	1.予選通過者 2.KGA特別承認者 3.前年度男子5位までの者 中学、女子は優勝者のみ
	2	木			36S	
					18S	
					18S	
9	6	木	関東シニア予選 第1ブロック	美薗	18S	満60歳以上 JGA Hdcp 16まで
	7	金	第2ブロック	オークヒルズ	18S	
8	30	木	関東オープン	宍戸国際	18S	1.アマ 関東アマ40位 2.前年度アジアアマ日本代表 (関東在住) 3.プロ 歴代チャンピオン
	31	金			18S	
	1	土			18S	
	2	日			18S	
9	25	火	関東シニア決勝	龍ヶ崎	18S	1.予選通過者
	26	水			18S	
10	23	火	関東グランド・シニア	程ヶ谷	18S	数え年70歳以上 JGA Hdcp 22まで

資 格	予通過基準	授 賞 範 囲	参 加 料
5. KGA後援 県アマ5位 (千葉、茨城、群馬、静岡、神奈川、埼玉)			
6. KGA後援 県オープン5位 (千葉、群馬、長野、新潟、神奈川、茨城)	各ブロック20位まで	メダリスト	予選決勝を通じ 20,000円
7. KGA推薦者			
3. 関東学連推薦若干名 4. KGA特別承認者	各ブロック60位まで	メダリスト	予選決勝を通じ 20,000円
5. 前年度関東ジュニア1位 6. 前年度東日本パブリックアマ1位(関東在住) 7. 前年度アジアアマ日本代表(関東在住) 8. KGA特別承認者	前半36S 成績90位まで が後半に進出	I～5位 予選通過賞	シード選手のみ 20,000円
月例総合成績10位	全員2日間プレー	I～5位 予選通過賞	シード選手のみ 20,000円
	クラブ対抗特別ルール による規定適用	各ブロック予選 優勝チーム 個人メダリスト	予選決勝を通じ 150,000円
開催クラブチーム		優勝、準優勝 個人メダリスト	
中学男子 I5歳未満 (但し、4月1日現在とする)	高校男子150人 中学男子20位 女子12位	メダリスト	予選決勝を通じ 5,000円
	高校男子前半18Sで60 位までが後半進出	高校男子 I～5位 中学男子・女子 I～3位 全員予選通過賞	
未実施クラブは年間ベスト10 スコアで14まで	各ブロック60位まで		予選決勝を通じ 20,000円
4. プロ 関東オープン前年度15位 5. 関東プロ協会選考85名 6. KGA特別承認者	前半36S 60位(含むアマ) アマのみ5位	プロ 賞金2,000万円 アマ I～3位 アマ 入選記念品	加 盟 20,000円 加盟外 25,000円
前年度関東シニア10位	全員2日間プレー	I～5位 全員予選通過賞	シード選手のみ 20,000円
未実施クラブは年間ベスト10 スコアで20まで		I～5位	15,000円

競技

第9回関東グランド・シニア・ゴルフ選手権競技

●期日 10月26日(水) ●コース 小金井カントリー倶楽部 ●参加者 100名

昔はシニア選手権の場合は、シニアになりたての新入りシニアが圧倒的に強いといわれたものである。ところが最近の“老齢化社会”でシニアが若返ったのか、最近のシニアは4~5年のキャリアを積んだベテラン・シニアが暴れまくっている。

しかし、これも数え年70才からのグランド・シニアとなると、まだまだ若さに溢れる新入りが優勝の最有力候補として注目される。

数え年70才からのグランド・シニアの新入りといえば、大正3年生の人達だが、その中でも優勝候補の筆頭と目されていたのが、ロング・ヒッターとしても聞こえている矢野正親(鳥山城)である。昭和49年に満60才のシニアになりたての年、やはり関東シニア選手権の優勝をさらったほか、毎年シニア選手権の上位に顔を出して来た強豪であり、数え70才になったこの秋の関東シニア選手権も相変わらず多くの若手シニアを尻目に13位に入るなど、未だにバリバリのシニア現役選手、それがグランド・シニアに初登場するのだから必勝の意気込みも凄かったようだ。

この大会の指定練習日は10月19日(水)と21日(金)の2日だったが、この2日ともいにの水雨に見舞われるという悪コンディションに、大半のお年寄りが、

「風邪でも引いては元も子も無い…」と練習ラウンドをあきらめてしまった中で、矢野ばかりは水雨の指定練習日を勤勉したばかりでなく、2日目は1ラウンド・ハーフをこなすという元気さである。

「皆からことしは貴方が本命だといわれてきたので、それに恥じないゴルフをしなければ……」とかえて本人には本命視されたことが負担になり、それが雨の中の練習ラウンドに駆立てていたようだ。

この大会は2日間の36ホールで行なわれていたものを、本年度から1日の18ホール・ストローク・プレーに変更された。それだけにスタートで下手なミスをすると取返しが効かない。

大会当日、インからスタートした矢野は、出だしのつまづきを警戒しながら慎重に飛ばして10番347mは6番アイアンで2オン、11番393mもバッフィー

で2オンして、出足の難関2ホールをともに手堅くパーにまとめてすっかり調子に乗った。13番はパッティーで打った第2打をグリーン・オーバーさせ、難しい斜面からのリカバリーがきかずに初ボギー、17番187mのショート・ホールもグリーン手前からの寄せをミスしてボギーをたたいたものの、その長打力は一向に衰えを見せず、豪快に飛ばしてパーを続け、インは2オーバー・パーの38。

とにかく16番329mのやや上りのパー4では、右のクロス・バンカー越しに飛ばして、残りの第2打の距離が90mしかなかったそうだから、差引きドライバーの飛距離は239m、まさに若手プロ並みの飛ばし振りである。

アウトでは4番でつまづいた。7番アイアンで打った打ち上げの第2打が大きく、グリーン奥のバンカーに落し、返しのバンカー・ショットもオーバーさせて手痛いダブル・ボギーをたたいた。しかし、



初参加、初優勝を見事飾った矢野正親氏

この矢野に肉迫していたのはグランド・シニア3年目の鈴木兵吉(千葉)である。アウトを2オーバーの38にまとめ、インでも17番を終って通算6オーバーと頑張っていたが、最後の18番でダブル・ボギーと荒れて2位に落ち、本命と見られていた矢野の初優勝が確定。3位にはやはりグランド・シニア新入生の鈴木義平(船橋)が9オーバーの81ストロークで入賞、4位は84ストロークで山縣昇輔(宍戸国際)角実(小金井)の2人が並んだが、地元の有利さはあったにもせよ、数えて80才にもなった角の活躍は見事だった。

第9回 関東グランド・シニア・ゴルフ選手権競技成績表

参加者100名 10月26日(水) 於: 小金井カントリー倶楽部

順位	氏名	クラブ	アウト	イン	合計
優勝	矢野 正親	鳥山城	40	38	78
2	鈴木 兵吉	千葉	38	42	80
3	鈴木 義平	船橋	41	40	81
4	山縣 昇輔	宍戸国際	41	43	84
4	角 実	小金井	41	43	84
6	倉野 四郎	大利根	43	42	85
6	闇 定藏	大洗	40	45	85
6	伊藤 大造	甘楽	43	42	85
9	池尾 勝巳	相模	43	43	86
9	浜 洋治	相模	45	41	86
9	池 永 弘	戸塚	41	45	86
9	浅井 武	袖ヶ浦	43	43	86
9	吉田 正三郎	霞ヶ間	41	45	86
14	宮崎 三郎	東京	44	43	87
14	安武 秀次	相模	41	46	87
14	富田 三郎	相模原	44	43	87
14	大内田 栄熙	日本	44	43	87
14	松田 富哲寿	嵐山	44	43	87
14	国本 基寿	相模原	44	43	87
14	渡辺 武信	函南	44	43	87
21	重富 清一	袖ヶ浦	44	44	88
21	光一 久	相模	45	43	88
21	木嶋 隆輔	常陽	46	42	88
21	小室 茂	富士	44	44	88
21	疋井 芳一	小田原湯本	48	40	88
26	清藤 盛一	小金井	43	46	89
26	穡 弥之助	相模	46	43	89
26	山 口	ニコニセント	44	45	89
26	栗田 英男	蘆之台	43	46	89
26	伊藤 一郎	柏	49	40	89
26	平 善男	我孫子	46	43	89
26	岡 田	相模操	47	42	89
26	川 本	大利根	43	46	89
34	山田 正吉	霞ヶ間	41	49	90
34	日塔慎一	相模原	41	49	90
34	大森 清弥	多摩	45	45	90
34	藤原 英一	龍ヶ崎	43	47	90
34	石井 喜一	一の宮	45	45	90
34	宮田 光秀	東京	44	46	90
34	山角 敬一	千葉	46	44	90
41	荒井 春長	蘆之台	44	47	91
41	千田 翼命	千葉	44	47	91
41	田中 秀三郎	小金井	44	47	91
41	松浦 茂秋	小田原湯本	46	45	91
41	坂本 平一郎	武蔵	50	41	91
41	鈴木 太郎	相模	45	46	91
47	高 広次	霞ヶ間	45	47	92
47	飯田 尚文	桜ヶ丘	48	44	92
47	細川 謙貞	東京	47	45	92
47	本間 純一	鬼怒川	49	43	92
47	西原 畿	武蔵野	48	44	92
52	平野 善次郎	我孫子	45	48	93
53	和田 平兵衛	袖ヶ浦	46	48	94
53	清水 岩吉	川崎国際	45	49	94
53	村山 五郎	相模原	46	48	94
53	小川 保人	相模原	44	50	94
53	湯浅 光正	総武	48	46	94
58	小林 行治	相模原	48	47	95
58	木村 俊一	大利根	48	47	95
58	赤坂 裕	富士士	49	46	95
58	坂川 好太郎	富士士	45	50	95
62	渡辺 洋三	袖ヶ浦	46	50	96
62	橋本 正三	相模原	50	46	96
62	小川 吉衛	小金井	46	50	96
62	大河 鶴四	我孫子	49	47	96
62	金森 英雄	武蔵野	46	50	96
67	森山 鉄雄	愛廉	47	50	97
67	関根 薫三郎	蘆之台	49	48	97
67	金田 貞二	藤ヶ谷	48	49	97
67	金亀 本哲	東京国際	50	47	97
67	山崎 支生年	宍戸国際	49	48	97
67	見学範正	愛廉	46	51	97
67	木村 芳雄	富士士	50	47	97
67	中津 幸雄	GMG八王子	48	49	97
75	寺西 幸博	大利根	45	53	98
75	大浜 淳之助	湯河原	51	47	98
77	佐武 大市	東京五日市	50	49	99
78	古川 軒正	八王子	50	50	100
79	西澤 駿志	湯河原	51	50	101
79	佐藤 舜与四郎	川崎国際	50	51	101
79	堀内 茂	鬼怒川	51	50	101
79	井上 錠	大利根	49	52	101
79	田沼 正蔵	鬼怒川	50	51	101
79	大武 実	鴻巣	51	50	101
85	中村 孝一	鬼怒川	56	46	102
85	林 哲	桜ヶ丘	47	55	102
85	真崎 英夫	GMG八王子	47	55	102
88	武田 真一	大利根	51	52	103
88	吉田 利夫	蘆之台	56	47	103
88	有馬 近神	長竹	49	54	103
91	岸 二郎	大利根	49	57	106
92	牧原 満寿一	相模原	51	56	107
92	福田 富市	華嚴	56	51	107
92	宮本 俊雄	武蔵野	52	55	107
95	田中 孝一	相模原	53	55	108
96	佐藤 孝太郎	鴻巣	59	52	111
97	鍋島 秀源	川崎国際	62	52	114
	大場 正雄	青梅	失格	失格	
	安濃 勇	相模原	失格	失格	
	小村 太郎	総武	棄権	棄権	

競技

第30回関東シニアゴルフ選手権競技

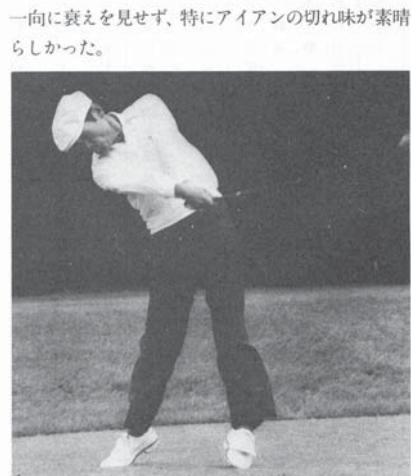
予選 ●期日 8月26日(金) ●コース 第1ブロック: 横浜カントリークラブ(東)
第2ブロック: 習志野カントリークラブ(クイーン) ●参加者 238名
決勝 ●期日 9月20日(火)・21日(水) ●コース 藤ヶ谷カントリークラブ ●参加者 135名

今や日本は“老齢化社会”的波が押し寄せているという。それを反映してか、関東シニア選手権も年々参加者の数が増大して来ているのも事実。とにかく今から約10年前の昭和47年から48年にかけてシニアの参加者は共に51名に過ぎなかった。参加者が100名を越したのが昭和50年のこと。それから昭和54年まではせいぜい130名前後だった。それが急激に増えたのは昭和55年からである。この年の参加者は166名と一気に30数名の増、翌56年が177名。鷹之台カントリー倶楽部で開かれた昨年度の関東シニア選手権は、ついに参加者が234名に達した。シニア選手権の参加者が増大することは、それだけチャレンジ精神の旺盛な若々しいシニアが増えたことであり、まさに“老人パワー”的充実を感じさせられて誠に結構なことであるが、これだけ人数がふくれ上がるとなれば18ホールの競技を日没前に消化できるかどうかが問題になってくる。昨年度は競技委員を総動員してコース内の各所に配置、プレー進行の督促に務めてもらい、何とか事無きを得たが、本年度は昨年度以上の参加者が見込まれたため、ついにシニア選手権も2ヶ所での予選を実施することになったのである。

本年度の出場者総数は251名、そのうち決勝にシードされた13名を除いた238名を第1ブロック(横浜・東コース)第2ブロック(習志野・クイーン)に分け、8月26日(金)にそれぞれ予選を行った。

第1ブロックではイーブン・パー-72の好スコアにまとめた新井康之(立川国際)をトップに85ストロークまでの67名、第2ブロックでは73の明石純一(唐沢)をトップに81ストロークまでの60名がそれぞれ予選を通過、9月20日から2日間、千葉県の藤ヶ谷カントリークラブで開かれた決勝に進出した。

決勝の第1日から飛び出したのは一昨年に初優勝を遂げ、昨年は惜しくも2位に甘んじた山口梅吉(横浜)である。シニアは4度目の出場ながら、小さなバック・スイングから目一杯にぶつ飛ばす長打力は、



2度目優勝、山口梅吉氏の力強いショット

「何しろ練習ラウンド無しのマッチョ本番だからどうなることやら……」などと不安な口振りをしていたが、口とは裏腹に自信満々の力強いショットでスタート、最初のインでは11番で3パット、13番のショート・ホールでグリーンを外すなどと2ボギーの38、アウトではいよいよアイアンが冴え、パットも決まり出して5番で約4mのパットを決めてパーを出したのをきっかけに、7番でもピンそば3mに着けて2つのパーを、続く8番では寄らず3パットの手痛いダブル・ボギーをたたいたが、9番ではまたも第2打をピンそば2mにつけてまたもパーをものにし、アウトは1アンダーの35、この日を1オーバー・パー-73の好スコアにまとめて早くもトップ。1ストローク差の2位には昭和52年、53年、55年と3度関東シニアのチャンピオンをものにしている松野京三(我孫子)昭和54年度の日本シニア・チャンピオンでホーム・コースの地の利にも恵まれている新保衡助(藤ヶ谷)昭和56年度に2位入賞

を果たしている浜野賢(レインボー)等の強豪が順当に進出して来た。意外だったのは前年度チャンピオンの宮富保(鷹之台)腰痛のせいかこの日は83ストロークと振るわず、ついに最終日を棄権してしまった。

朝の中、雨模様だった最終日は、雨のプレーを予想して各グリーン共にピンは高めの場所に切られ、パットが非常に難しくなったことが、最終日のせり合いを荒れさせた。

トップの山口が「3パットを3回もやっちやって……」と1パーを、5ボギーの40、これに対して2位だった松野と新保がともに4ボギー、1ダブル・ボギーと大荒れ、いずれも難しいピンの位置にパットのカンを狂わせられたもので、山口との差は3ストロークと聞いてしまった。僅かに浜野がアウトを1パーを、5ボギーの40にまとめ、ピッタリと1ストローク差で食い下がったが、その浜野もインに入ると10番、12番、13番とパットが決まりずにボギーを連発して後退してしまった。

一方の山口はインに入るとすかし調子を取り戻し、着実にスコアをまとめ出した。ただ13番のショート・ホールでティー・ショットをバンカーに落し、2オン2パットのボギーをたたいたものの、16番では約7mの長いパットを決めてパーを出し、インをイーブン・パーの36、通算は5オーバー-73の149ストロークとなったが、前日の2位グループが揃ってスコアをくずしただけに、山口の逃げ切りかと思われた。

しかし、予想外のところから伏兵が飛び出した。前日は76ストロークで8位グループにいた平本正美



決勝ラウンド18番ホール、山口氏に1打リードされていた平本正美氏は2オンしてパーを獲得した。キャディさんとラインを読み、見事パーを決めて優勝した山口梅吉氏

(津久井湖)である。前年度鷹之台でのシニア選手権でも8位の実績があるが、この日はショットもパットも好調で、アウトは3番と6番でたたいた2ボギーだけに止めて38、アウトを終った時点では山口を1ストローク差に追いついていたのである。

最後のインでは距離のあるミドル・ホールの11番でボギーをたたいたが、16番は第2打をピンにからめてパーを、そして最終ホールの18番も見事なパットを決めてパーをもぎ取り、インを1アンダー・パー-35の快スコアで急追、通算は5オーバー-73の149ストロークにして最終組の山口のプレーを見守っていたのである。

結局、平本と山口の2人でサドン・デスのプレー・オフに持ちこまれたが、スタートの1番457mのロングホールは、ともに3オン2パットのバーでゆづらず、2番160mのショート・ホールは、平本がウッドを使用してピン奥約5mに乗せたのに対し、長打力に勝る山口は、5番アイアンでピンそば2mにつけた。ここで平本はグリーン奥から惜しい3パットをしてしまい、山口に2度目の優勝が転がり込んだのである。



堂々2度目の優勝を飾った山口梅吉氏

山口はこのタイトルの外に横浜カントリークラブの今年のクラブ選手権でも、並いる若手選手を蹴落としてクラブ・チャンピオンを獲得したそうだし、また関東シニアの後、10月に我孫子で開かれた日本シニア選手権でも三連勝を遂げるなど、まさにシニア・ゴルフ界の“怪物”であり、今後どこまで勝ち続けるかが見物であろう。

競技

第30回関東シニアゴルフ選手権決勝競技成績表

参加者135名 9月20日(火)・21日(水) 於:藤ヶ谷カントリークラブ

順位	氏名	クラブ	第1ラウンド		第2ラウンド		合計	
			アウトイン	計	アウトイン	計		
優勝	山口 梅吉	横浜	35	38	73	40	36	149
2	平本 正美	津久井湖	37	39	76	38	35	149
3	大塚成吉	中山	35	43	78	38	35	151
4	新保衛助	藤ヶ谷	38	36	74	42	36	152
5	佐藤 道	中山	40	38	78	38	37	153
5	浜野 賀	レインボ	36	38	74	40	39	153
7	松野京三	我孫子	37	37	74	42	38	154
8	吉島 浩	土浦	39	37	76	38	41	155
8	安田俊浩	取手日本	39	36	75	39	41	155
10	明石純一	唐沢	40	39	79	41	37	157
10	中村正信	我孫子	41	36	77	43	37	157
12	塙幸彦	廣瀬	39	40	79	42	37	158
13	猿井光透	サンコ	40	41	81	40	38	159
13	山田光陽	相武	41	43	84	37	38	159
13	佐山梅義	新千葉	39	40	79	40	40	159
13	橋本義雄	堺谷	37	40	77	41	41	159
13	福田仁彰	我孫子	41	35	76	42	41	159
13	矢野正親	鳥山城	37	39	76	41	42	159
13	神林錦	我孫子	40	41	81	40	39	160
19	笠原千恵	業	38	42	80	39	41	160
19	佐野耕夫	武蔵	43	37	80	41	39	160
19	遠藤慶麗	大通	40	40	80	41	39	160
19	北沢一郎	東京国際	38	41	79	43	38	160
19	福田国三	浜松シーサイド	39	40	79	42	39	160
19	鈴木政伊	川崎国際	42	37	79	42	39	160
19	山下尚武	武蔵	38	41	79	43	38	160
19	岡安功	廣瀬	39	39	78	42	40	160
19	橋本聰志	志野	37	40	77	44	39	160
19	武石小二郎	通船	38	38	76	43	41	160
19	宗光厚	水戸	43	39	82	39	39	160
19	目崎隆司	我孫子	37	37	74	46	40	160
19	小原正也	土浦	42	40	82	39	39	160
33	室山常正	龍ヶ丘	40	41	81	41	39	161
33	河口恒治	武蔵	40	40	80	40	41	161
33	青木宏尤	絆	38	42	80	42	39	161
33	横山夏	鍾ヶ谷	38	41	79	44	38	161
33	道瀬庫治	GOMGエ王子	42	42	84	39	38	161
33	押谷七衛	ヶ浦	37	38	75	43	43	161
33	清水武男	水戸	40	41	81	42	39	162
33	首藤利夫	武蔵	41	40	81	41	40	162
33	古口文志	ダイヤクリーン	41	39	80	42	40	162
33	藤野正三郎	セントラル	38	42	80	42	39	162
33	内山正寄	桜ヶ丘	41	39	80	40	42	162
33	新井康之	立川国際	43	37	80	42	40	162
33	河原克次	茨城	39	40	79	40	43	162
33	朝井伸也	扶桑	41	42	83	42	37	162
33	飯森道建	中津川	41	42	83	41	38	162
33	高木猛	杉ノ木	41	42	83	39	40	162
33	雨宮範昌	本厚木	41	42	83	40	39	162
33	渡辺憲也	セントラル	41	39	80	42	40	162
33	内山正寄	桜ヶ丘	41	39	80	40	42	162
33	新井康之	立川国際	43	37	80	42	40	162
33	河原克次	茨城	39	40	79	40	43	162
33	朝井伸也	扶桑	41	42	83	42	37	162
33	飯森道建	中津川	41	42	83	41	38	162
33	高木猛	杉ノ木	41	42	83	39	40	162
33	雨宮範昌	本厚木	41	42	83	40	39	162
33	渡辺憲也	セントラル	38	42	80	42	40	162
33	内山正寄	桜ヶ丘	41	39	80	40	42	162
33	新井康之	立川国際	43	37	80	42	40	162
33	河原克次	茨城	39	40	79	40	43	162
33	朝井伸也	扶桑	41	42	83	42	37	162
33	飯森道建	中津川	41	42	83	41	38	162
33	高木猛	杉ノ木	41	42	83	39	40	162
33	雨宮範昌	本厚木	41	42	83	40	39	162
33	渡辺憲也	セントラル	38	42	80	42	40	162
33	内山正寄	桜ヶ丘	41	39	80	40	42	162
33	新井康之	立川国際	43	37	80	42	40	162
33	河原克次	茨城	39	40	79	40	43	162
33	朝井伸也	扶桑	41	42	83	42	37	162
33	飯森道建	中津川	41	42	83	41	38	162
33	高木猛	杉ノ木	41	42	83	39	40	162
33	雨宮範昌	本厚木	41	42	83	40	39	162
33	渡辺憲也	セントラル	38	42	80	42	40	162
33	内山正寄	桜ヶ丘	41	39	80	40	42	162
33	新井康之	立川国際	43	37	80	42	40	162
33	河原克次	茨城	39	40	79	40	43	162
33	朝井伸也	扶桑	41	42	83	42	37	162
33	飯森道建	中津川	41	42	83	41	38	162
33	高木猛	杉ノ木	41	42	83	39	40	162
33	雨宮範昌	本厚木	41	42	83	40	39	162
33	渡辺憲也	セントラル	38	42	80	42	40	162
33	内山正寄	桜ヶ丘	41	39	80	40	42	162
33	新井康之	立川国際	43	37	80	42	40	162
33	河原克次	茨城	39	40	79	40	43	162
33	朝井伸也	扶桑	41	42	83	42	37	162
33	飯森道建	中津川	41	42	83	41	38	162
33	高木猛	杉ノ木	41	42	83	39	40	162
33	雨宮範昌	本厚木	41	42	83	40	39	162
33	渡辺憲也	セントラル	38	42	80	42	40	162
33	内山正寄	桜ヶ丘	41	39	80	40	42	162
33	新井康之	立川国際	43	37	80	42	40	162
33	河原克次	茨城	39	40	79	40	43	162
33	朝井伸也	扶桑	41	42	83	42	37	162
33	飯森道建	中津川	41	42	83	41	38	162
33	高木猛	杉ノ木	41	42	83	39	40	162
33	雨宮範昌	本厚木	41	42	83	40	39	162
33	渡辺憲也	セントラル	38	42	80	42	40	162
33	内山正寄	桜ヶ丘	41	39	80	40	42	162
33	新井康之	立川国際	43	37	80	42	40	162
33	河原克次	茨城	39	40	79	40	43	162
33	朝井伸也	扶桑	41	42	83	42	37	162
33	飯森道建	中津川	41	42	83	41	38	162
33	高木猛	杉ノ木	41	42	83	39	40	162
33	雨宮範昌	本厚木	41	42	83	40	39	162
33	渡辺憲也	セントラル	38	42	80	42	40	162
33	内山正寄	桜ヶ丘	41	39	80	40	42	162
33	新井康之	立川国際	43	37	80	42	40	162
33	河原克次	茨城	39	40	79	40	43	162
33	朝井伸也	扶桑	41	42	83	42	37	162
33	飯森道建	中津川	41	42	83	41	38	162
33	高木猛	杉ノ木	41	42	83	39	40	162
33	雨宮範昌	本厚木	41	42	83	40	39	162
33	渡辺憲也	セントラル	38	42	80	42	40	162
33	内山正寄	桜ヶ丘	41	39	80	40	42	162
33	新井康之	立川国際	43	37	80	42	40	162
33	河原克次	茨城	39	40	79	40	43	162
33	朝井伸也	扶桑	41	42	83	42	37	162
33	飯森道建	中津川	41	42	83	41	38	162
33	高木猛	杉ノ木	41	42	83	39	40	162
33	雨宮範昌	本厚木	41	42	83	40	39	162
33	渡辺憲也	セントラル	38	42	80	42	40	162
33	内山正寄	桜ヶ丘	41	39	80	40	42	162
33	新井康之	立川国際	43	37	80	42	40	162
33	河原克次	茨城	39	40	79	40	43	162
33	朝井伸也	扶桑	41	42	83	42	37	162
33	飯森道建	中津川	41	42	83	41	38	162
33	高木猛	杉ノ木	41	42	83	39	40	162
33	雨宮範昌	本厚木	41	42	83	40	39	162
33	渡辺憲也	セントラル	38	42	80	42	40	162
33	内山正寄	桜ヶ丘	41	39	80	40	42	162
33	新井康之	立川国際	43	37	80	42	40	162
33	河原克次	茨城	39	40	79	40	43	162
33	朝井伸也	扶桑	41	42	83	42	37	162
33	飯森道建	中津川	41	42	83	41	38	162
33	高木猛	杉ノ木	41	42	83	39	40	162
33	雨宮範昌	本厚木	41	42	83	40	39	162
33	渡辺憲也	セントラル	38	42	80	42	40	162
33	内山正寄	桜ヶ丘	41	39	80	40	42	162
33	新井康之	立川国際	43	37	80	42	40	162
33	河原克次	茨城	39	40	79	40	43	162
33	朝井伸也	扶桑	41	42	83	42	37	162
33	飯森道建	中津川	41	42	83	41	38	162
33	高木猛	杉ノ木	41	42	83	39	40	162
33	雨宮範昌	本厚木	41	42	83	40	39	162
33	渡辺憲也	セントラル	38	42	80	42	40	162
33	内山正寄	桜ヶ丘	41	39	80	40	42	162
33	新井康之	立川国際	43	37	80			

ルールQ&A

がない趣旨であるのか、そうであれば両者を区別する理由如何。

〔質問3〕

表現の問題かと思いますが、勧奨規定5の前段に、「……遅延となる状況のウォーター・ハザードに入った球に対しても……」とありますが、「入った球」であれば始めから暫定球をプレーする余地はなく、「……遅延となる状況のウォーター・ハザードの方向に球が行ったときは、暫定球のプレーを許すこと」とすべきではないか。

A-2 1. 暫定球のプレーが「ウォーター・ハザード以外で紛失、またはアウト・バウンズのおそれのあるときに限られる。

しかし乍ら、球が「ウォーター・ハザードに入ったかどうか確かめることが困難であるか、または確かめるには不方にプレーを遅延するような状況のウォーター・ハザードに対して、時間節約のためローカル・ルールで暫定球のプレーを許すことができる。この場合には、はじめの球が「ウォーター・ハザードに入っていたならばそのままプレーするか暫定球でプレーして、規則33条2または3の処置をしてはならないと定めたものが付属規則I「ローカル・ルール5」である。

このローカル・ルールを必要とするようなウォーター・ハザードは、その方向に飛んだ球が発見されない場合、ウォーター・ハザード内外いずれ紛失したか明らかでなく、ウォーター・ハザード内で紛失したと決める適正な立証が得られないような地形にある。また、球が「ウォーター・ハザード内で発見されても、その境界を最後に横切った地点が不明であり規則33条2または3の処置は不可能である。

従って、ウォーター・ハザード内で紛失したと決める適正な立証がない場合は普通の紛失球として規則29条1aの処置をとらなければならないが、時間節約のためこの処置を事前に暫定球としてプレーさせるのがこのローカル・ルールの目的である。このローカル・ルールの基になっているのは1963年まで実施されていた規則30条3「ウォーター・ハザードの場合」であり、それを修正してローカル・

ルールとして採用できることになったのが現在の付属規則I「ローカル・ルール5」である。

1963年度、規則30条3項 ウォーター・ハザードの場合

プレーヤーが、本条に基づいて予備球(暫定球)をプレーしたときに、初めの球がウォーター・ハザード、またはラテラル・ウォーター・ハザードにあつたならば、初めの球をそのままの位置からプレーするか、またはイン・プレーの予備球でプレーを続け、第33条またはローカル・ルールに基づいて球を所定の箇所にドロップする救済手段を採用してはならない。ただし「球がウォーター・ハザードまたはラテラル・ウォーター・ハザードにあったときは、予備球でプレーを続ける」と、本条第1項のaに記す宣言を相手またはマークーに、事前に告げてあったときはこの限りでない。

2.USGA裁定60-2の状況は、プレーヤーAは球が丘の上を越えてその先は見えなくなってしまったおそれがあるので、それに対してプレーした暫定球である。従って、初めの球がクリーク内(ウォーター・ハザード)で発見されたのであるから規則30条2Cで定める所に従い暫定球を放棄しなければならなかった。同裁定回答の末尾に「彼の暫定球はウォーター・ハザード内の球に關係のある暫定球ではなかった」と述べられている如く、ローカル・ルールで定めている暫定球とは別個の問題である。

3.ローカル・ルールの5「ウォーター・ハザードと暫定球」の文面はご指摘の如く誤解を招くおそれがある故、文面も検討し1984年度ルール・ブックにて訂正する予定。

〔Q-3〕 「落点にて球を搜しても見つからず前位置に打ち直しに戻るケースです。下記の各々の場合、球を捜しありて5分以内として、初めの球がそのまま正球なのか、どうかです。
1.(イ)「見つからないから打ってくる」と言って戻りかけた。
(ウ)前記、戻りかけてから球が見つかった。
2.(イ)「見つからないから捜しておいてくれ、取り合はず打ってくる」と言って戻りかけた。
(ウ)前記、戻りかけてから球が見つかった。

(イ)前記、戻って球を打ってから球が見つかった。規則第30条1項aに「初めの球を捜してかける前にプレーしなければならない」とあり、球を捜して見つかず諦らめた(放棄した)としても打ち直しをプレーするまでは正球なのか、どうかです。

A-3 1. 初めの球を捜し始めてから5分間は、他の球をイン・プレーとしない限り初めの球はイン・プレーの状態である。

2. 初めの球をプレーした前位置に戻って他の球をイン・プレー(スルー・ザ・グリーンまたはハザードでは初球をドロップしたとき、ティでは球をプレーしたとき)にしたならば、たとえ初めの球が5分間以内で発見されても紛失球となる。従って、質問2のハの場合だけが紛失球となる。
また、暫定球は規則30条1に従い、時間節約のためにプレーできるものであって、質問の状況の場合に適用できる規定ではない。

Q-4 当俱楽部クラブチャンピオン競技(ストロークプレー)に於て、A、B、Cの3人が1組となってスタートし、No.2ホールにて3人共、グリーンにオンさせ、キャディからそれぞれバターを受け取り、Cが最も距離があったので、パッティングを行なったところ、カップの近くに寄ったので、「お先に失礼します」と云い、ホール・アウトしました。次にBがパッティングをしようとしたところ、バターがCのものと間違っている事に気付き、Cから自己のバターを受け取りホール・アウトしました。B及びCのバターは同一メーカー製の同型バター、(グリップの太さが多少違っていた)であった為、Cは自己のバターであると信じ、ホール・アウトし、Bからの申し出により気付いた。

CのマークーはAであるのでAはペナルティとして2打罰を付加した。
一方、同一グリーン上であっても他人のバターを2回使ったのだから4打罰ではないかとの意見も出ましたが当委員会としては、日本ゴルフ協会発行のゴルフ規則裁判集の76-2を参考として2打罰付加と裁定しました。当委員会の裁定は正しかったでしょうか。

A-4 委員の裁定は正しかった。規則3条1にて定める如く、正規のラウンドの出発に際し選定したクラブ(14本未満の補充を含め)以外のクラブを使用することは本項の反則としてストローク・プレーでは2打の罰が課せられる。〔質問の場合、一つのグリーン上で他人のバターを使用して2バットあるいは3バットしても、それは同一条項内の一連の反則であって罰は重複して課せられない。〕

「ストローク・プレーで、2つの球A、Bが、共にグリーン上にあってホールから同距離にあるとき、同時にプレーして運行中に衝突した場合」

の処置に関し、次の裁定のあることを知りました。

①JGA1971-3、規則35-1hにより罰なしに前位置にリプレーして再プレーしなければならない。

②USGA1973-23、A、Bともにホールから同距離のとき抽選で決めないで、同時にプレーして衝突したときは規則35-1gにより共に2打加罰、規則35-1hによりそのストロークを取り消し、再プレーしなければならない。

③JGA1974-11、A、Bともに規則20-1に定める球がホールから同距離のときに、先にプレーする選択権の決定を無視して同時にプレーした場合は規則35-1gの違反とみなし、共に2打の罰が課せられる。両球は衝突したのであるから規則35-1hに基づいて再プレーしなければならない。

④USGA1975-18(4) 公正の理念により、罰なしにそのストロークはリプレーしなければならない。

上記以外にも裁定があるのかも存じませんが、この4裁定からだけて判断いたしますと、JGAでは裁定①を③に訂正されたように解せられます。また1982年貴協会発行の「ゴルフ規則裁判集(USGA裁判集訳)1980」には、裁定④は記載されていますが、②は見あたりません。USGAでは②を廃棄し④によるよう訂正されたのでしょうか。いずれにしても上例の状況の場合、我が国では裁定②、④或は③のどれに従って処置したらよろしいのでしょうか。ご教示賜わりますようお願い申し上げます。

ルールQ&A

A-5 球を同時にプレーした結果による疑義がない。従って、競技に関する争点が規則に明示されていないときは、公正の理念に従って裁定しなければならない(規則11条4)。

以上の理由で、USGAは1975年以前の球を同時にプレーした結果による幾つかの裁定を全部キャンセルし、改めて規則11条4に基づいたUSGA 75-18の裁定を出してきた。

その結果、同時にプレーした球が衝突しなければ双方罰ではなく、球は止まった所からプレーを続け、もし衝突した場合はホールに近い方の球の持ち主が罰を受け、球の処置はプレーした場所によって決められることになった。

また、ホールから等距離の二つの球が同時にプレーされて衝突した場合は、双方罰なしで、球の処置はプレーした場所によって決められることになったのがUSGA 75-18の4と5であり、本委員会もこれに追従している。

Q-6 球にアドレスしなくともスタンスをとった後で動いた球は誤って動かした球とみなすべきである

私は斜面にボールが止っているときは、クラブのソールを地上につけて、ヘッドを浮かせた形にして構えるようにしています。これは、クラブのソールをつけるとアドレスしたことになり、それ以後にボールが動いた場合は1打付加して球の止ったところからプレーしなければならないという規則にひっかかるよう用心しているからです。

ところが、先日またマクラブのヘッドを浮かせて構えていたら、ボールがころころと10cmばかり転がってしまいました。私はまだアドレスしていないのでその球を無罰でリプレースしようとしましたが、同伴競技者はたとえクラブヘッドを浮かせていても、球から1クラブ・レンジス以内にいたのだから、球の動きの原因になっていたと見なし、1ペナルティーを加えるべきだと主張します。これは、球から1クラブ・レンジス以内のルース・インペディメントに触れた場合のことを云っているのだと思いますが、特に

ルース・インペディメントに触れた覚えがない場合は如何なものでしょうか。

A-6 プレーヤーがスタンスをとり、かつクラブを地上につけたとき、ハザードにおいてはスタンスをとったときに球にアドレスしたものと認めます。その後に球が動いたならば1打の罰を受けて球の止まった所からプレーを続けなければなりません。

質問のプレーヤーは上記のことを心配して、クラブ・ヘッドを地面から浮かせてスタンスをとったまでは予定通りだったでしょうが、その後に球が動いたことはスタンスをとったことが球の動きに原因したものとみなされ、誤って動かした球に対する罰1打が課せられて、その球はリプレースしなければなりません。また、ルース・インペディメントに触れた覚えがなくても結果は同じです。

追記:しかし乍ら、スタンスをとったときに球が動く原因は、プレーヤーが球の所へ歩いてきたための震動によるか、スタンスをとったときの震動によるかで不安定な状態で停止していた球が動いた場合は、プレーヤーが球の動きに原因したものと見做すべきですが、それ以外の原因(例えば風力や球を支えている芝草が球の重量に耐えきれなくなつて動く場合等)もありますので、この質問の場合も現場の状況を考慮に入れる必要もあります。

参考—規則27条1d(誤ってプレーヤーが動かした球)。
27条1e(ルース・インペディメントに触れた後に動いた球)。

(Q-6~A-6は、前号でも掲載されたが、質問の答えに不足点がございましたので、追加補足させていただきました。)

下記の関東ゴルフ連盟宛てに、ゴルフに関するご質問をお気軽にお寄せください。

〒100 東京都千代田区丸ノ内1丁目1番1号
パレスビル6階(606号)
関東ゴルフ連盟

理事会・委員会

加盟クラブ殿

昭和58年11月25日

関東ゴルフ連盟

理事長 細川護貞

58年度第5回理事会議事録

58年度第5回理事会議事項を下記の通りお知らせします。

日 時 昭和58年11月25日(金)正午

場 所 ホテルニューオータニ

出席者 細川理事長、鈴木、武内副理事長、相山、藤原、福田彰、古賀、木村、小宮山、松浦、松野、長沢、大槻、齊藤、佐藤各常務理事、浜口、金丸、勝又、勝山、北村、小林太郎、宮本、村田、森井、佐久目、竹井、滝沢、山崎、吉沢、内田、渡辺各理事、及び岩本、三嶋各監事

決議事項

1. 59年度予算について

細川理事長より、前回の理事会において承認された予算特別小委員会の構成を下記の通り報告。

予算特別小委員会

理事長 細川護貞

委員長 武内俊三

委 員 鈴木太郎、相山武夫、福田 彰、木村襄司、松浦 均、松野京三、長沢泰治、村田豊雄、森井誠治

統いて、武内委員長よりこの小委員会を10月6日と11月18日の2回にわたって開催し、まず本年度の推定による収支決算を作成、これを元に立案された明年度予算案の概略について説明があり、全員これに賛成した。

なお、競技参加料が高すぎないかとの意見に対しては競技のみに限った収支一覧表を提示、総体としては150万円の赤字になっている旨を説明、全員これに了承した。

2. グリーン特別小委員会報告の件

木村グリーン委員長より、前回の理事会においてグリーン研究所設置案についてはグリーン特別小委員会で再検討することになり、10月4日に開催したグリーン特別小委員会で検討した結果、連盟でグリーン研究所を設置することは中止し、コース管理に関してはグリーンキーパーの集りである

日本グリーンキーパーズ協会があるので、できれば個人加入のこの協会をクラブ単位で加入する形に変更し、この協会を中心となって研究所を設置する方がより順当ではないかということになり、早速キーパーズ協会の角田会長にその件を申し入れ、来春早々にでも発足させたいと思っているので、その時はよろしく協力願いたいと報告があり、全員これを了承した。

3. 59年度競技日程の件

福田競技委員長より59年度競技日程がすべて確定した旨の報告があった。なお、アマチュアの日程が多くなっているので、現在4日間で行なわれている関東アマチュア選手権競技を3日間の4ラウンドに変更したいこと、クラブ対抗競技はA、B両クラスを通してベスト7名のスコア合計で争そわれているが、これを、A、Bクラスそれぞれベスト3名、計6名のスコア合計に変更することを報告、これも異議なく了承された。

4. 各委員会報告の件

ハンディキヤップ委員会

武内委員長より本年度は未実施クラブを対象に各県別にハンディキヤップ説明会を積極的に行い、かつ、未実施クラブのアンケート調査を実施したが、これらの未実施クラブでも、中には強く反対するクラブもあるが、基本的にはJGA規定に準拠した計算方式をとっているクラブも多いことがわかり、総体的には良い方向に進んでいるものと意を強くした旨の報告があった。

競技委員会

福田委員長より、関東オープンの賞金総額2千万円が他にくらべて貧弱だと意見が出ているが、日本オープンの賞金が上った時点で対応したいとの意見を述べたが、細川理事長はその件は改めてオープン準備委員会で討議するからと説明があった。

ジュニア委員会

松野委員長より、恒例となった冬のジュニア教室を12月26日から28日までの3日間、栃木県の那須野ヶ原カントリークラブで開催する旨の報告があり、実施要項等細目の説明を行った。

税対策委員会

理事会・委員会

松浦副委員長より、9月27日に開催した委員会について報告、日本ゴルフ団体協議会が行った関係官庁に対する陳情内容等の説明があった。

5. 緑化協力50円募金の件

細川理事長より、環境庁より緑化協力の50円募金を日本ゴルフ協会に要請して来た旨の説明があり、結局、連盟としては各クラブにはそれぞれクラブ事情があるので、募金については各クラブの自主的判断にまかせることを決めた。

6. '84関東オープン準備委員会設置の件

細川理事長より、関東オープン準備委員会設置の提案が出され、全員異議なくこれを承認、委員の人は選は理事長に一任され、理事長は次の通り指名した。

委員長 細川護貞

副委員長 武内俊三、福田 彰

委員 木村襄司、古賀 始、森井誠治、中井 文治、山崎亥年生、渡部善夫、山崎一、北出勝一、森田一彦、松島義人、石原 淳、矢野達雄、加藤彰子

7. コース選定委員会設置の件

細川理事長より、連盟主催競技の開催コース選定については、より慎重にしなければならない旨の説明があり、コース選定委員会の設置を提案、全員異議なくこれを承認、委員の人は選は理事長に一任され、理事長は次の通り指名した。

委員長 細川護貞

副委員長 鈴木太郎、武内俊三

以上

お知らせ

●理事長変更のお知らせ

神奈川カントリークラブ (新) 平井幸雄
(旧) 空席
相模野カントリー倶楽部 (新) 牛丸義留
(旧) 伊吹秀雄
オークヒルズカントリークラブ (新) 諸方太郎
(旧)(代行)小島健嗣

●クラブ代表者変更のお知らせ

クラブ名	クラブ代表者
飯能パークカントリークラブ	大槻文平 斎藤吾一
小金井カントリー倶楽部	(新)角 実 佐藤和雄 (旧)中川岩太郎
リバーフォートカントリークラブ	黒田秀雄 (新)奥川純一 (旧)植田弥重郎
黒磯カントリー倶楽部	長谷川隆太郎 (新)三木俊治 (旧)実川正雄
大利根カントリークラブ	安西浩 (新)渡辺宏 (旧)空席

月例競技成績表

昭和58年9月～58年11月

[9月月例] 参加：男子81名・女子48名

9月19日(月) 於：嵐山カントリークラブ

(男子)

順位	氏 名	クラブ	アウト イン	合計
1	中 村 雅 明	日 大	35 36	71
2	小 川 透	岡部チサン	35 37	72
2	柴 田 良 三	東京よみうり	35 37	72
4	下 井 昌 史	日 大	38 35	73
4	高 木 信 行	鳥 山 城	37 36	73
4	高 安 信 行	セントラル	38 35	73
4	並 木 秀	日 大	34 39	73
4	額 貢 義 朗	船 橋	38 35	73
(以上入賞)				
9	浅 川 辰 彦	武 蔵	39 35	74
9	江 原 優 平	美 野 原	36 38	74
9	大 竹 徹	高 根	37 37	74
9	奥 延 通 康	茨 城	37 37	74
9	中 野 弘 治	美 菩	38 36	74
9	宮 里 佑 交	飯 能	35 39	74
15	内 山 健 司	青 梅	40 35	75
15	大 久 保 薩	桜 ケ 丘	39 36	75
15	齊 藤 真 人	日 高	40 35	75
15	杉 田 努	GMGA王子	37 38	75
15	高 橋 俊 三	鶴 舞	37 38	75
15	能 川 茂 美	戸 壇	38 37	75
15	松 岡 和 岳	東京よみうり	38 37	75
15	宮 奈 基 次	鶴 舞	40 35	75

コースレート 72.4

(女子)

順位	氏 名	クラブ	アウト イン	合計
1	三 木 恵 美 子	富 士	37 41	78
2	中 田 朱 美	袖 ケ 浦	40 39	79
(以上入賞)				
3	鈴 木 エ ツ	大 楽 野	37 43	80
4	山 崎 美 津 江	富士御殿場	39 43	82
4	吉 沢 キ ミ 子	セントラル	39 43	82
6	石 川 淑 子	源 氏 山	43 40	83
6	高 橋 良 江	東京国際	38 45	83
6	福 井 美 保	GMGA王子	40 43	83
6	渡 辺 恵 子	高 根	41 42	83
10	田 中 成 美	成 城 大	42 42	84
10	新 田 佐 喜 子	藤 囲	42 42	84

コースレート 70.3

(注)8月月例ブレー・オフの福井美保、吉沢キミ子氏は、吉沢キミ子氏が優勝しました。

[10月月例] 参加：男子100名・女子43名

10月24日(月) 於：我孫子ゴルフ倶楽部

(男子)

順位	氏 名	クラブ	アウト イン	合計
1	日 暮 俊 明	専 修 大	37 35	72
2	広 渕 武 宣	専 修 大	36 37	73
3	小 川 透	岡部チサン	39 35	74
3	佐 久 間 徹 二	袖 ケ 浦	38 36	74
3	桜 本 隆 南	總	35 39	74
(以上入賞)				
6	大 竹 徹	高 根	39 36	75
6	大 山 四 郎	鎌 ケ 谷	38 37	75
6	上 代 修 二	中 山	35 40	75
6	河 野 安 男	江 戸 嶽	36 39	75
10	柴 田 良 三	東京よみうり	40 36	76
10	下 井 昌 史	日 大	39 37	76
10	並 木 秀	日 大	37 39	76
10	森 茂 則	セントラル	39 37	76
10	安 間 章 浩	東 京 湾	38 38	76

コースレート 72.3

(男子)

順位	氏 名	クラブ	アウト イン	合計
10	米 山 刚	日 大	39 37	76
16	新 井 真 一	日 大	38 39	77
16	田 代 昌 義	新 千 葉	39 38	77
16	田 中 伸 一	伊 势 原	39 38	77
16	高 安 信 行	セントラル	42 35	77
16	内 藤 正 幸	桜 ケ 丘	37 40	77
16	中 野 弘 治	美 菩	38 39	77
16	松 井 滋	臥 之 台	40 37	77
23	飯 塚 武	千 葉	40 38	78
23	大 沢 正 春	臥 之 台	39 39	78
23	奥 延 通 康	茨 城	40 38	78
23	鹿 嶋 一 郎	セントラル	40 38	78
23	坂 田 哲 男	袖 ケ 浦	37 41	78
23	芹 沢 大 介	日 大	40 38	78
23	高 木 信 行	鳥 山 城	38 40	78

コースレート 72.3

月例競技成績表

昭和58年9月～58年11月

(女子)

順位	氏名	クラブ	アウト	イン	合計
1	喜多麻子	茅ヶ崎	36	45	81
1	三木恵美子	富士	42	39	81
(以上入賞)					
3	太田由紀枝	千葉廣濟堂	41	42	83
3	吉沢キミ子	セントラル	41	42	83
5	福井美保	GMG八王子	41	43	84

順位	氏名	クラブ	アウト	イン	合計
5	渡辺恵子	高根	40	44	84
7	佐藤奈保子	日大	42	44	86
8	高橋良江	東京国際	45	42	87
8	中田朱美	袖ヶ浦	43	44	87
8	新田佐喜子	藤岡	42	45	87

コースレート 71.1

(注)喜多麻子、三木恵美子氏は、タイスコアの為、11月月例にてプレー・オフを行ないます。

[11月月例] 参加：男子83名 11月18日(金)

於：鷺之台カンツリー倶楽部

(男子)

順位	氏名	クラブ	アウト	イン	合計
1	浅川辰彦	武藏	39	34	73
2	中野弘治	芙蓉	35	38	73
3	小出一尤	姉ヶ崎	38	36	74
3	高安信行	セントラル	36	38	74
3	堀越栄治郎	相模原	34	40	74
(以上入賞)					
6	坂田哲男	袖ヶ浦	39	36	75
7	佐久間徹二	袖ヶ浦	36	40	76
7	田代昌義	新千葉	36	40	76
7	西谷晃	新千葉	37	39	76
10	鹿屋一郎	セントラル	39	38	77
10	広瀬義兼	富士平原	38	39	77
12	内山記一	伊勢原	38	40	78
12	田中泰二郎	下野	40	38	78
12	根本太湧	水戸	41	37	78
12	原莊雄	東名厚木	39	39	78
16	石井重次	東京国際	41	38	79
16	大沢正春	鷺之台	40	39	79
16	奥延通康	茨城	40	39	79
16	笠川喜久男	新千葉	37	42	79
16	河野安男	江戸崎	40	39	79
16	並木秀	日大	38	41	79
16	森茂男	立川国際	39	40	79
16	安間章浩	東京湾	41	38	79
16	山田保太郎	桜	40	39	79
16	吉田八郎	府中	38	41	79

コースレート 73.4

(注)浅川辰彦、中野弘治氏はプレイオフを行なう予定でしたが中野弘治氏棄権の為、浅川辰彦氏が優勝しました。

参加：女子31名 11月11日(金)

於：越生ゴルフクラブ

(女子)

順位	氏名	クラブ	アウト	イン	合計
1	高橋良江	東京国際	38	37	75
2	喜多麻子	茅ヶ崎	39	41	80
2	黒沼カホル	烏山城	40	40	80
2	福井美保	GMG八王子	39	41	80
(以上入賞)					
5	吉沢キミ子	セントラル	42	39	81
6	鈴木エツ	大秦野	40	42	82
6	高橋知子	日体大	41	41	82
6	中田朱美	袖ヶ浦	39	43	82
9	小野岡たき子	大秦野	46	38	84
9	勝呂裕子	越生	43	41	84
9	田村千代子	鎌ヶ谷	42	42	84

コースレート 67.8

(注)10月月例ブレーオフの喜多麻子、三木恵美子氏は、喜多麻子氏が優勝しました。

昭和58年12月20日発行 KGAニュースNo.5

発行所 関東ゴルフ連盟 東京都千代田区丸の内1-1-1 TEL.(03)215-0511

発行人 細川護貞 編集 広報委員会